

『一人の笑顔のために』

『防災の失敗は人の命に関わる。 その失敗は無関心からはじまる。』



これは、6月9日（火）に行った小中合同避難訓練のまとめとして、児童生徒に話した言葉です。

今回の大雨のために、本校も6日（月）の6時間目をカットし、7日（火）は臨時休業としました。今回の県南地方をはじめ、九州各県の被害状況を見て、いかに早くて確かな判断ができるかが人の命を守るためにとても重要なことなのだと改めて考えさせられました。

実は、7日（火）の朝5時過ぎに山鹿経由で学校に向かいました。途中、水がたまっているところや通行止めのところもあったのですが、迂回路を通り、学校に到着することができました。しかし、そこも数時間後には通れなくなっている状況がテレビのニュースで報道されていたのです。ほんの数時間の差で、状況が大きく変わることを思い知らされました。

タイトルの通り、防災についての関心を持ち、日頃からの備えと情報収集の方法を考えておく必要性を感じたところです。

保護者の皆さまのご家庭では被害はなかったでしょうか。被害に遭われた方々には、心よりお見舞いを申し上げます。

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災において、各種のボランティア活動及び住民の自発的な防災活動についての防災上の重要性が広く認識されました。これを機に、「防災とボランティアの日」（毎年1月17日）及び「防災とボランティア週間」（毎年1月15日～21日）が創設されました。

この大震災によって6400名を越える尊い生命が失われました。残された者が流した涙と汗はどれだけのものであったでしょうか。

しかし、そこにはさまざまな人の励ましやあたたかい思いが寄せられました。被害にあわれた方々は、それらを受けとめた生き方をしたいと、これまで必死に生きてこられた様子がさまざまなメディアから伝えられました。その姿からは命の尊さを教えられました。

「自然災害をなくすことは出来ないが、被害を減らすことはできる。」

あの無念さを「減災」につなごう と様々なボランティア活動が行われてきました。

今回大きな被害を受けた県南地方でも、被災者のために無料で商品を配布するスーパーや、無料で温泉を開放する旅館などの取組（ボランティア）が報道されています。また、これまでの災害支援と同様に、自衛隊によるお風呂支援も行われているようです。ニュースの映像で、被災者の方々が、それらの支援に対して、涙をうかべながら感謝を述べられている姿が心に残りました。

神戸市の阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」を訪れたことがあります。「1・17シアター」では、地震発生により崩壊していくビルや高速道路などの様子が、大型映像で伝えられ、その迫りに圧倒されました。「大震災ホール」では、震災から復旧・復興へと至る町と人の姿を、ドキュメンタリー映像で見ることができました。震災で家族をなくした少女のナレーションが印象に残っています。その映像を見ながら、「私が今ここにこうして生きていることはどんなに幸せなことなのか。」ということをおもひ知らされました。「いのち」や「生きる」ということについて考えました。「住む家があること。」「毎日、食事ができること。」「水道をひねれば水が出ること。」そんな当たり前とと思っていることが実は当たり前ではなく、多くの人に感謝をしなければいけないことなのだと感じました。